

# カリキュラム

機構施設名：大分職業能力開発促進センター  
 実施機関名：合同会社瓦林総合研究室

(A)バックオフィス	RPAを活用した業務効率化・コスト削減
------------	---------------------

コースのねらい	業務の効率化とコスト削減をめざして、RPAの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、RPAを活用した自社業務の課題解決策立案に繋げることができる能力を習得する。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	
講義内容	1	■ 業務を自動化する RPA (Robotic Process Automation)	(1) RPAの機能の概要 VUCAの時代に求められる業務の在り方について触れ、近年使われているRPA (Robotic Process Automation) とは何か、種類と従来のシステム開発ツールとの違いについて解説を行い、代表的なツールの紹介を行う。  (2) RPAの特徴 (活用の向き / 不向き) RPAが向いている作業、向かない作業について、作業の内容と作業に費やす時間の2つの視点から業務の例を紹介しながら解説する。 【演習】 自社の業務について、作業の内容で分類頂き、RPAに向いている業務がないか点検頂く。結果をグループ内で共有の上、グループ毎に発表頂く。  (3) RPAを導入するメリット 業務をRPA化することで得られるメリットを従業員にもたらすWBLの実現などのメリット、企業にもたらす利益率の向上などに分けて解説し、ひいては事業継続を維持するためのメリットに昇華させるためのエッセンスについて解説する。  (4) RPAの活用事例 RPAで実際に業務を効率化できた事例と失敗事例を紹介し、成功のために重要なポイントを解説する。	0.5  0.5  0.5  1.0
	2	■ RPAを活用した業務効率化とコスト削減策の立案	(1) RPA化を見越した業務の見える化 RPAを導入する前にまず業務改善が必要であることを説明し、業務改善のためにもまずは業務の見える化を行う必要があることを理解頂く。 業務の見える化を行うために業務フロー図を作成すること、そのメリットについて解説する。  (2) RPA活用による業務効率化の検討 業務効率化のための課題の抽出と整理、優先順位付けの手順を解説する。優先度順の課題ができたなら、次は業務改善を行うための手法や考え方について解説する。 その後業務改善された後の業務についてRPA化の適用可否を業務フロー図などから抽出する手法について解説する。 さらにRPA適用する業務が決定したら、その業務についての手順をRPA化できるレベルまで落とし込み、見える化する。その手法を解説する。  【演習】 受講者様の職場での実際の課題を挙げてもらい、優先順位をつけていただく。優先順位については、自動化できた場合の業務効率化の度合 (時間) でつける。さらにその中からRPA化対象を抽出してもらう。  (3) RPA導入コストと削減コストの比較 RPA製品にかかる初期費用、維持費用および人的費用、ハードウェアや一般的には見えにくい運用費用などのコストについて解説し、RPA化で削減できた (または削減できる予定の) 作業のコスト換算を比較し導入効果を算定する手順について解説する。  (4) 導入に係るコスト削減策立案 RPA導入に係るコストの削減策立案のポイントについて解説する。	1.0  1.5  0.5  0.5
合計時間			6.0	

カリキュラム作成のポイント
・RPAの知識がない方でも用語説明から行い、実際の動作をみていただき、さらにどのような業務が向くかを自社の業務で検討する演習を通じ訓練後にRPA導入の推進役を担える力をつける内容にしています。 ・RPA導入が目的にならないよう、導入前に費用対効果を検証し効果が出るRPA導入が検討できるようなカリキュラム内容としています。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア (受講者用)	●機器・ソフトウェア (講師用・その他)
	・PC (講師用) ・OS: Windows 10 ・アプリケーション: Microsoft Office 2016 PowerPoint
●使用するテキスト	●その他
オリジナルテキスト	

利用事業主に用意をを求める機器等	備考
・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー (赤・黒) ・プロジェクタとパソコンを接続するHDMIケーブル	・自社の課題を整理するワークの時間をとる。 ・グループディスカッションを通じ、互いの課題の情報交換する。